

令和7年度 第2回新潟市北区郷土博物館協議会 概要

日 時：令和8年3月19日（木）午後3時～

場 所：新潟市北区郷土博物館 特別展示室兼集会室

出席委員：7名

今井 美弥子、貝沼 良風、 北上 あつ子、倉島 陽子、倉地 一則
なぐも 友美、本田 雄二 （五十音順、敬称略）

欠席委員：鷲尾 健仁 （敬称略）

傍 聴 者：なし

事 務 局：（北区地域総務課）江戸 誠一 課長

（北区郷土博物館）伊藤 健 館長〔司会〕、大森慎子 主幹（学芸員）〔記録〕

曾部 珠世 学芸員、大野 瑞穂 学芸員

資 料：当日配布資料（別添）

会議次第、資料1 令和7年度後期事業報告、資料2 令和8年度事業計画

会議のあらまし

（1）令和7年度後期事業報告

（2）令和8年度事業計画

会議概要

1 開 会

2 会長あいさつ 新潟市北区郷土博物館協議会 会長 倉地 一則

3 あいさつ 新潟市北区地域総務課 課長 江戸 誠一

4 議 事

（1）令和7年度後期事業報告【資料1】

資料に基づき事務局（大森学芸員）から事業報告を行った

委員からの主な質問、意見と事務局からの回答は以下のとおり

（事務局からの回答は→で表す）

○ 北上副会長

- ・ 地域の老人会などが福祉バスを申請するとバスは無料で利用できる。行った先の施設利用料も無料になれば多くの高齢者が訪れることができる。
- ・ こども用のワークシートがすごく良かった。

- ・ 今開催の企画展は昭和20年代生まれの人にとっては懐かしい企画展だった。電気のない時代に生活が改善するようなものを作り出す人間をなんて素晴らしいことかと感じた。ただ懐かしいだけではなくて、その人間の知恵であるとか、その生活をよくしようとする住民の思いであるとか、そういうものがちょっとまた触れられると良かったと感じた。

- ・ 博物館実習は一人何日間とか決まっているのか。

→ 一人7日間実習をしてもらっている。

- ・ 若い人たちの力をこういう時に活用するっていうのは素晴らしいことだ。

- ・ 金銭を扱う仕事が増えたが職員負担はどうか。

→ 当初は慣れない場面もあったが仕組みを整えてミスのないよう取組んでいる。工夫をしながら取り組んでいるので負担になって困っている状態ではない。

○ なぐも委員

- ・ 入館者数が激減したと聞いたが、プラスの表現で言わせていただくと有料になったということが周知されていると思った。だからこそ、これからは人と人との繋がりを大切にして、ネットワークを広げていく必要がある。

- ・ からくり屏風のワークショップが割と人気があるようだがこれはどういったものか。

→ 帯を仕込んで、いろいろな方向に開けられるからくり的な屏風である。

- ・ 美術を味わうレシピア展の関連事業だったがどのような関連か。

→ その企画展で屏風を展示していたので、その技術を応用した体験を計画した。

- ・ 「からくり」というところに魅力を感じるところもあったのかもしれない。良いワークショップはそのまま続けてファンを広げていくのも良い。

- ・ 高校生の見学で、新発田高校と豊栄高校が来た聞いたがこれはどういった関係か。

→ 新発田には博物館がないので、1番近い博物館ということで来てくれた。博物館がどういうところかを学ぶ目的で先生が連れてきてくださった。豊栄高校は地域の魅力をグループで発見する目的で来てくれた。

- ・ 小学生も良いが、高校生などの学びの場を提供していて良いと思う。何を目的にきてくれたかを考えることなどが集客に繋がる。何で知って来てくれたか、どうしてこの博物館を選んでくれたかを知ることも集客に繋がるのではないか。

○ 倉島委員

- ・ 出前授業で私がコーディネータを勤める小学校に来てくれた時に手伝いなどをするこ

とができた。多くの道具を学校に持ち込んでくれてありがたく感じた。

- ・ 子どもたちは、なかなかイメージがつかめないので洗濯板のところに手ぬぐいがあったり、飯びつのところに茶碗があったり、プラスワン入れないと伝わらない。

→ 出前授業の時には説明もしているが、ご指摘のことなども配慮していきたい。

○ 貝沼委員

- ・ 今日企画展を見たが展示資料の状態が良いので驚いた。市民の人々がどのように保管していたのか垣間見ることができて関心をもった。
- ・ 郷土芸能公演の参加者 540 名の内訳を聞きたい。公演を行う団体の関係者なのかどのような方が来てくれたのか教えてもらいたい。

→ 詳しい統計はとっていないが、公演を行う団体の関係者も多少いるが多くは郷土芸能に興味をお持ちの近隣の高齢の方々の他、子どもを対象としたイベントに訪れた子供やその家族も多く来ていただいた。

- ・ 郷土芸能というとそれに興味がある人が来てくれるが、今回の取組のように家族連れにも来てもらえるイベントによりその方々も増え、大変喜ばしいことだ。家族連れにも触れられるイベントがたくさんあると良い。博物館の観覧者の増加にも繋がる。
- ・ 来観者が半減したのは、無料だった頃を知っている人たちが有料になって残念だったところが多い。有料であることが自明になった時にどのような方々が来ていただけるかが重要である。もしかしたら家族連れが重要になるのかもしれない。

○ 今井委員

- ・ 来館者に子どもを対象にした体験などあれば良い。むかしの暮らし展などで雑巾をしぼる、紐を結ぶなど体験してもらってはどうか。災害にも役立つのではないか。

○ 本田委員

- ・ 無料から有料になって前年度比で54%ほどになることは予想できた。無料のこども作品展は昨年度と同程度だったので潜在的な人気はあるが有料になって半減したのではないか。
- ・ 有料になった他の館のデータなどがあれば教えてもらいたいと思った。

○ 倉地会長

- ・ 今回の昔の暮らし展は本当に素晴らしい展示だ。写真の選定も良い。展示しているテレビや真空管ラジオ。新潟地震や洪水でも市街地の方はわかっていたが豊栄の方の被害も分かって良かった。蚊帳、湯たんぽ、洗濯板など博物館が所有しているものだと示し

た方が良い。

- ・ 11月の郷土芸能公演は多数の集落が出演している。芸能の映像記録も行って大変良い取組だ。動画も公開して大変良いと思うが、公開していることについて広報しているのか。
- ホームページで広報してリンクも貼っているが、区だよりなどには掲載していない。
- ・ 北区は神楽の宝庫で有名。興味ある人も多く、感心を持ってもらっている。二日間かけて動画編集もしているのでうまく広報してファンを広げてもらいたい。
- ・ 小学校の児童が100人くらい来ている。どのようにしてこの博物館で体験などしているのか。
- 1回に数クラスで来ていただいている場合もあるが、いくつかのグループに分け、常設展示で体験・見学をするグループと集会室などで資料を説明するグループにして交替しながら対応している。
- ・ 新規ボランティアの募集で何人か集まっている。他のボランティアでもなかなか人が集まらない。どのような工夫をしているのか。
- 市報と区だよりに募集を掲出している。
- ・ 来館される団体も減ってボランティアもガイドの機会が減ってきているが体験などに頑張ってもらっている。工夫しながらボランティアを活用してもらいたい。

(2) 令和8年度事業計画【資料2】

資料に基づき事務局（伊藤館長）から事業計画の説明を行った委員からの主な質問、意見と事務局からの回答は以下のとおり
(事務局からの回答は→で表す)

- 本田委員
- ・ 常設展示の改修を3週間ほどかけて行うそうだがどの程度行うのか。講演を多くして集客につなげると説明があったが料金はその程度徴収するのか。
- 常設展示の改修は、現段階で考えているのが動画を使って展示を分かりやすく伝えたい。常設展示室の入り口あたりにコーナーを設けて映像を出すなどしていきたい。講演料は企画展などを観覧してもらうことを前提に講演を計画しており、観覧料プラス資料代程度の料金としている。
- ・ 画家の齋藤氏の講演は公民館で行うのでここには来なくても聞くことができるがどうするのか。

→ 収蔵作品も博物館で展示し、その作品もご覧いただくことを前提に観覧料込みの講演参加費を設定したい。

○ 今井委員

・ 郷土芸能公演は向いの小学校で行うそうだがその体験プログラムも小学校で行うのか。
→ そのとおり小学校で体験プログラムも行う。

・ 昔は11月に博物館祭りがあって郷土芸能も含めていろいろなコーナーがあった。向いの小学校から博物館には道路も横断しなければならない。一つでも二つでも博物館で何か行ったら良いのではないか。

→ 11月3日の郷土芸能公演は恒例行事となっていて、スペースの関係から向いの小学校で行っている。当日は文化の日で博物館は観覧料無料となっている。大勢の方々に博物館にもおいでいただきたい。

○ 貝沼委員

・ 北区らしい面白そうなテーマの企画展や講演会を計画している。魅力を前面に上げることによって、観覧料を入れても十分に人が入ると思う。
・ 常設展示の改修で動画を見てもらうという話があった。みなとピアに3分、4分の動画があるが20代30代の人と同じところで長く動画を見ることを得意としない。1分くらいの動画を数多く見ていく。じっくり見てもらいたいタイムパフォーマンスなど世代ごとの感覚の違いも重要と思う。展示の構成も重要だと思う。

→ 委員の指摘する時間や構成が重要だと思う。次年度、業者のプロからいろいろ聞きながら改修を行っていききたい。

○ なぐも委員

・ 年度を跨いで展示も良いし、学びなおしのニーズが高まっているなかで講演が多いのも良い。個人的な経験から無料より有料で学ぶ方が真剣に話を聞いてくれる。葛塚縞の布でグッズを作るのも楽しみ。エコバッグを作って市場に買い物に行くとか、エコバッグを購入した費用の1割を市場の活性化に使う。博物館と地域が連携するような仕掛けがあれば良い。観覧料260円を500円にして300円分は市で使えるようにするとか。

・ 新津鉄道資料館も商店街と一緒に連携してやっている。博物館があることで地域が潤っていく活性化していくような仕掛けがあったら良いと思う。是非検討してもらいたい。

・ SNSもやっているが少し課題もあるので、担当の方にアドバイスしたい。企画展も事

後報告ではなくて事前告知であげることでもマスコミもそれを見ている。そういった活用もしたら良い。何があるか分からない博物館にお金を払ってくる人はいない。有料だからこそどんどん写真や情報を出していき本物を見てみたいと思わせることが重要。

- ・ 今年ラムサール、湿地の会議が秋頃あるが潟の企画展はその前にやっていて会議の時には終わっている。企画展の開催時期の考えを教えてください。

→ 11月30日から12月2日まで世界湿地都市ネットワーク市長会議が新潟市で行われるが、バスツアーなども行いたいのでこの時期に企画展を考えた。新潟市の環境政策課が会議のメインで活動を行っているがそのパネルなども借りて展示して会議のことを紹介する感じになると思う。

- ・ フリーウェイツアーさんなどにも連絡してはどうか。

○ 倉島委員

- ・ 常設展の改修は、どんな風になるか楽しみ。この博物館は福島潟と区役所の間地点みたいな場所にある。ウォーキングや散歩で歩く人も多い。桜が咲くころに休憩兼ねて見学するようなコースに入れられないか。回数券やシーズンパスみたいなものを作って毎日散歩したら気軽に寄れるような取り組みはどうか。
- ・ 常設展のリニューアル記念でお得な回数券を作るなど、とにかく1回来てもらう。SNSに近くを通ると桜がきれいに咲いているとか、こんな鳥が飛んでいるというような発信をしてはどうか。
- ・ 松浜に住んでいる私は、こちらまで来る機会は限られていた。博物館に来てみてようやく内容がわかった。分からない人に来てもらうきっかけの一つとして福島潟や散歩を絡めるなどして発信してはどうか。

○ 北上副会長

- ・ 令和8年度の計画を聞いて美術企画展がないと思った。美術講演会に関連展示とあるが言葉が寂しい。集会室などが展示スペースになるのであれば言葉を美術展、ギャラリーにするなどすれば美術に興味のある人も感心を持つのではないか。
- ・ 西区に住んでいるので西蒲区が近く潟東樋口記念美術館にも行くことがある。その資料館に鎧潟の資料が展示されている。今はひな祭りで展示していて岩室などでも同様に展示している。いろいろな館と連携ができれば良い。回るコースがチラシになっている。自分のところだけでなく他の館も巻き込んでいけば北区の人だけではなく他の区の人にも認識される。一つのテーマを共同で開催できれば、一つの館に行くと他の館のこと

も認識される。風習も福島潟と鎧潟では違いもあるだろう。そういった他館との連携により広がりが楽しめる。

○ 倉地会長

- ・ 観覧者の集計で団体の来館も結構いるが。
- 本来団体は有料観覧者20人以上が対象となるが、ビュー福島潟との相互割引でビュー福島潟に行った方が団体料金で観覧できるようにしている。集計の数のほとんどがこの割引適用の方である。
- ・ 北区にあって他の区にないものは何かと考えたときに、木崎村小作争議が挙げられる。他の区との連携でアピールしたり紹介したり、講座などもできるのではないか。
- ・ 資料の収蔵スペースはどれくらいの余裕があるのか。
- かなりいっぱいになっていてあまり余裕のない状態である。
- ・ 文化庁が資料の廃棄について触れたことがあったが、それはまずいと思う。貴重な資料なのでここでいっぱいになったから捨てるのではなくしっかりと保管しなければならないと思う。
- 新潟市でも学校の統合があって廃校になるところもある。そういった施設を倉庫として利用できたら良いと思う。財務上厳しいところではあるが博物館の資料の他に防災倉庫への活用としても重要と考えている。

(3) その他

事務局から次年度の会議の予定、次年度の博物館法に基づく再登録に向けた主な予定について説明した。

5 閉 会